

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
V. 耕 起 (1) MON-39 液	茎葉処理	寒冷地以西.	一年生雑草.	耕起前; 20日～40日.	④ mL/a 25～75	全 土 壤	1) 稀釈水量は, できるだけ少量で, 茎葉によく付着するように散布する. 2) 周辺の作物に飛散しないように注意する.
(2) OK-621 液	茎葉処理	温暖地以西.	全草種.	耕起前; 20日～7日 (雑草生育期).	④ mL/a 30	全 土 壤	1) 耕起前散布上の注意を守る.
(3) OK-622 液	茎葉処理	温暖地以西.	全草種.	耕起前; 20日～7日 (雑草生育期).	④ mL/a 30	全 土 壤	1) 耕起前散布上の注意を守る.

註: 1) アンダーライン (実線) は本年度拡大された部分 (尚, 薬剤名のアンダーラインは, 本年度はじめて使用基準の作成されたもの).

2) アンダーライン (点線) は, その一部が拡大されたもの.

昭和52年度畑作関係除草剤 試 験 成 績 概 要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

昭和52年度畑作関係除草剤の適用性試験成績中央検討会の結果を報告する。

本年度供試された畑作関係除草剤は, 定性スクリーニングに3剤, 作用性試験は14剤の36点, 適用性試験に供試された薬剤は29剤でのべ試験点数は63点 (大豆11点, 小豆5点, 菜豆8点, 落花生5点, とうもろこし5点, 陸稲2点, さとうきび2点, ばれいしょ6点, かんしょ6点, こんにゃく4点, てんさい9点) であった。

適用性試験の結果, 「実」, 「実・継」, 「継」の判定を得たものは第1表の通りである。

この外「継?」の判定であった薬剤は, 小豆のS-28乳剤, DAC-893水和剤, てんさい (直播) のBJL-120 [現地混合] 剤, 「中止」の判定であった薬剤は, 小豆のSL-501・A液剤であった。また, スギナ対策のパラコート液剤は, 試験中につき, 今回は一応「保留」ととした。なお, NP-48(Na) 水溶剤のオイル加用については, 大豆・落花生・かんしょのいずれもさらに 試験を継続して検討することとした。

実用化可能と判定された薬剤の使用基準は, 第2表の通りである。

財団法人日本植物調節剤研究協会編

Weed List in Asian-Pacific Area

A 4 版 47 ページ
定 価 2,000 円 (送料別)

東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育研究会内
発行所 植 調 編 集 印 刷 事 務 所

第 1 表 昭和 52 年度 畑作関係除草剤適用性試験結果判定表

区 分	実	実 ・ 継	継
1) 大 豆	S-28乳剤, トリフルラリン乳剤+リニョン水和剤, (ANK-553 乳剤).	NP-48(Na) 水溶剤(単・体), B-3015・P 粒剤.	SL-501・A 液剤, SL-501 液剤(体), BAS-3510 水和剤(体), MS-76 水和剤, HSW-761 水和剤, DAC-893 水和剤.
2) 小 豆	SSH-36 液剤.	NP-48(Na) 水溶剤(体).	
3) 菜 豆		SSH-36 液剤.	SL-501・A 液剤, NP-48(Na) 水溶剤(体), S-28乳剤, BAS-3510 水和剤(体), MS-76 水和剤, HSW-761 水和剤, DAC-893 水和剤.
4) 落 花 生	NP-48(Na) 水溶剤(単・体).	S-28乳剤, B-3015・P 粒剤.	SL-501・A 液剤.
5) とうもろこし		ANK-553 乳剤, B-3015・P 粒剤.	エプタム粒剤, SSH-43 水和剤, エプタム乳剤.
6) 陸 稲	B-3015・P 粒剤.	ANK-553 乳剤.	
7) さとうきび		VEL-26 水和剤.	SSH-43 水和剤.
8) ばれいしょ		OK-622 液剤.	SSH-46 乳剤, ANK-553 乳剤, SSH-36 液剤, MB-76 水和剤, OK-621 液剤.
9) か ん し ょ	NP-48(Na) 水溶剤(単・体), B-3015・P 粒剤, NK-049 水和剤.		SL-501 液剤(単・体).
10) こ ん に ゃ く	B-3015・P 粒剤.	ANK-553 乳剤.	S-28乳剤, SSH-36 液剤.
11) て ん さ い	NP-48(Na) 水溶剤(体).		NTN-77 水和剤, SL-501・B 剤(移) SL-501・C 剤(移), PL 水和剤(直), BJL-119 水和剤(移), BJL-119・S 剤(移), BJL-120 剤(移), BJL-121 剤(直).

注) (単) は単用, (体) は体系処理, (移) は移植, (直) は直播である.

第 2 表 昭和 52 年度 畑作関係実用化除草剤使用基準一覧表

区 分	薬 剤 名	剤型	判定	処理方法	処理時期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
1) 大 豆	NP-48(Na) (単用)	水溶	実・継	茎 葉	イネ科 2 ～ 5 L (北海道 2～4L)	10～15 g/a	全 土 壌	温暖地以北	

区 分	薬 剤 名	剤型	判定	処理方法	処理時期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
1) 大 豆 (つづき)	NP-48(Na) (体系)	水溶	実・継	茎 葉	イネ科2 ～5L (北海道 2～4L)	10～15g/a	全 土 壌	全 国	広葉対象の既 登録土壌処理 剤を使用。
	S-28	乳	実	土 壌	出芽前	20～40ml/a	全 土 壌	寒 地	
	トリフルラリン + リニュロン	乳 水和	実	土 壌	は種後 ～ 出芽前	トリフルラリン 20ml/a + リニュロン10 ～15g/a	全土壌－寒冷地 火山灰土－温暖地		
	B-3015・P	粒	実・継	土 壌	は種後	400～600 g/a	全 土 壌	寒冷地以南	
	ANK-553	乳	実	土 壌	は種後	20 g/a	火山灰土	寒 地	
2) 小 豆	NP-48(Na) (体系)	水溶	実・継	茎 葉	イネ科2 ～5L (北海道 2～4L)	10 g/a	全 土 壌	寒冷地以北	広葉対象の既 登録土壌処理 剤を使用。
	SSH-36	液	実	土 壌	出芽前	80～100 ml/a	全 土 壌	寒 地	
3) 菜 豆	SSH-36	液	実・継	土 壌	出芽前	80～100 ml/a	全 土 壌	寒 地	大正金時。
4) 落花生	NP-48(Na) (単用)	水溶	実	茎 葉	イネ科2 ～5L	10～15 g/a	全 土 壌	温暖地以西	
	“ (体系)	“	“	“	“	“	“	“	広葉対象の既 登録土壌処理 剤を使用。
	S-28	乳	実・継	土 壌	は種後	20～40ml/a－全土壌－温暖地 20ml/a－火山灰土－暖地			
	B-3015・P	粒	実・継	土 壌	は種後	400～600 g/a	全土壌－温暖地以西 火山灰土－寒冷地		
5) とうも ろこし	ANK-553	乳	実・継	土 壌	は種後	20～30ml/a	火山灰土	温暖地	
	B-3015・P	粒	実・継	土 壌	は種後	400～600 g/a	火山灰土	温暖地	
6) 陸 稲	ANK-553	乳	実・継	土 壌	は種後	20～30ml/a	火山灰土	温暖地以西	
	B-3015・P	粒	実	土 壌	は種後	400～600 g/a	全 土 壌	寒冷地以南	
7) さとう きび	VEL-26	水和	実・継	土・茎	さとうき び2～3L 期以下	10～20 g/a	全 土 壌 (砂土除く)	沖縄県	春植・夏植。
8) ばれい しょ	OK-622	液	実・継	茎 葉	萌芽前	20 ml/a	全 土 壌	寒冷地、温 暖地	

区 分	薬 剤 名	剤型	判定	処理方法	処理時期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
9) かんしよ	NP-48 (Na) (単用)	水溶	実	茎 葉	イネ科 2 ～ 5 L	10 ～ 15 g/a	全 土 壌	温暖地以西	
	" (体系)	"	"	"	"	"	"	"	広葉対象の既 登録土壌処理 剤を使用。
	B-3015・P	粒	実	土 壌	挿苗後	400～600 g/a	全 土 壌	温暖地以西	
	NK-049	水和	実	土 壌	挿苗前, または挿 苗後	60 ～ 100 g/a	全 土 壌	温暖地以西	
10) こんに ゃく	ANK-553	乳	実・継	土 壌	植付後, または培 土後	20～30 ml/a	全 土 壌	寒冷地, 温 暖地	
	B-3015・P	粒	実	土 壌	植付後, または培 土後	400～600 g/a	全 土 壌	寒冷地, 温 暖地	
11) てんさ い	NP-48 (Na) (体系)	水溶	実	茎 葉	イネ科 2 ～ 4 L	10～15 g/a	全 土 壌	寒 地	P Lまたは, ベタナール。

外 国 文 献 抄 録

直播稲における雑草との競合と防除について

SHARMA, H. C.^{*}, H. B. SINGH^{*} &
G. H. FRIESEN^{**}: Competition
from weeds and their control in
direct-seeded rice.

Weed Res. vol. 17, 103-108,
1977

印度の稲作 37.3×10^6 ha のうち, 22.5×10^6 ha
が直播稲である。直播田の中でも 10×10^6 ha は
年間雨量 750 ～ 1500mm で水湿に恵まれない地
帯である。印度の農業で作物生産の低位は, 雑
草害が重大な関係をもっている。学者たちの評

価によると, 印度における雑草による米の減収
率は10～70%に及ぶということである。直播稲
では, 雑草との競合が早期に始まり, 移植稲よ
りも大きな被害を受けているにも拘わらず, こ
れに関する資料に乏しい。

この実験は, 競合とその時期, ならびに防除
についての見解を得るために試みたものである。

材料と試験方法

1. 作物と雑草の競合試験

1972 - '74 年夏モンスーン季に Banaras ヒ
ンズー大学農学部の研究圃場にて行った。保水

^{*}Department of Agronomy, Banaras Hindu University Varanasi - 221005, U. P., India

^{**}All India Co-ordinated Research Project for Dryland Agriculture, Hyderabad - 500030, A. P. India